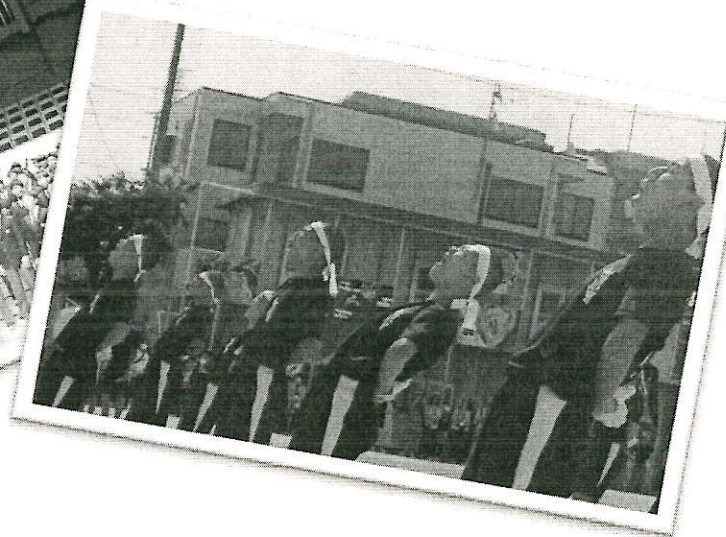
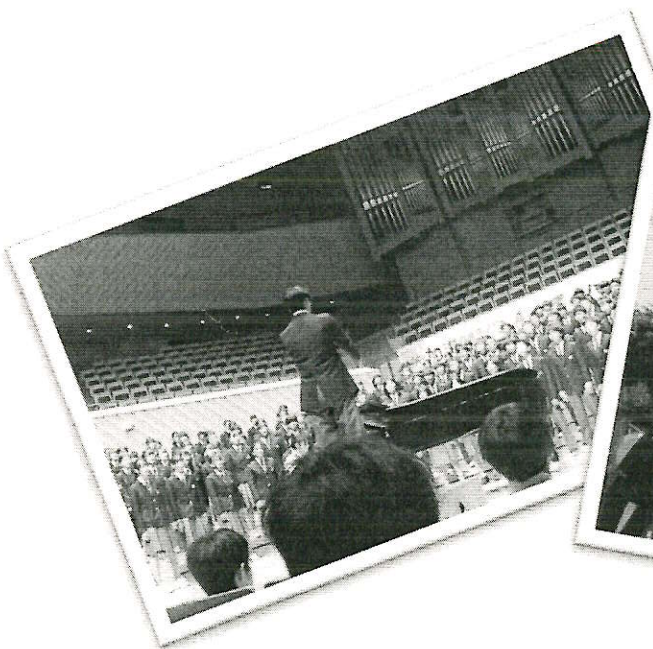


令和8年度

教育課程、学習評価・評定について

各教科学習指導評価の資料
(観点別学習状況評価を中心に)



～ 次 第 ～

1. 学校長あいさつ

2. 教育課程全般について

3. 令和8年度 各教科観点別評価規準ならびに学習の観点について

国語

社会

数学

理科

音楽

美術

保健体育

技術家庭

英語

道徳

総合

4. 質疑

川崎市立南加瀬中学校

教育課程全般について

I. 各教科の研究主題と具体的な取り組み

全体目標：基礎・基本の定着を目指した【わかる授業】の推進

国語	主題	豊かな言語活動を通して語彙力を高める
	取組	様々な言語活動を通して、「言葉」について学び合い「言葉の引き出し」を増やす
社会	主題	指導と評価の一体化～学びに向かうための評価の実践～
	取組	生徒が自らの学びを振り返って次の学びに向かうことができるようするための学習評価を行う
数学	主題	生徒の理解と意欲を高める授業づくり
	取組	基礎基本の定着とICTの活用を図る
理科	主題	科学を探究する資質や能力と態度を育成するための指導と評価～「主体的に学習に取り組む態度」についての研究～
	取組	GIGA 端末を推進して、グループワークを活性化させる
音楽	主題	音楽の豊かさや美しさを感じ取り、思いや意図をもって表現する力を高める指導の工夫
	取組	ポイントを絞った課題の設定と、思いや意図を共有し試行錯誤しながら表現する活動を多く設定する
美術	主題	形や色のもつ力に気づく視点を育む美術教育
	取組	「使える」「使っている」を感じ取れる題材設定の工夫
保健体育	主題	健康 自らの健康に関心を持ち、心身の健康の保持増進に関する内容を実生活の中で生かすことができる能力の育成
	取組	精神 積極的に運動の特性に触れ人とのかかわりを大切にしながら運動の楽しさや喜びを味わうための学習指導と評価の工夫
	取組	人との関わりの中で、技能向上を図る
技術家庭科	主題	生徒一人ひとりの意欲を引き出し、生活する力を育む指導方法の研究
	取組	学習・作業内容を、視聴覚機材等を活用して、明確化をはかる
英語	主題	コミュニケーション能力の向上を目指し、基礎・基本を定着させる指導法の研究
	取組	思考ツールの一つであるマッピング等を活用し、相手が理解しやすいように内容を整理しながら、生徒が即興で事実や自分の考えなどを伝え合う力の育成に取り組む。
特別活動	主題	一人ひとりの生徒が自分の良さを発揮し、お互いの良さを認め合える特別活動の創造と推進
道徳	主題	多様な価値を認め、自分の生き方・考え方を深く見つめる道徳教育の推進
総合	主題	多様な価値観を大切に、将来を見つめ自分の歩む道を切り拓ける生徒の育成

II. 教育課程時間配当(教科・領域等)

	国語	社会	数学	理科	音楽	美術	保体	技家	英語	道徳	特活	総合
1年	140	105	140	105	45	45	105	70	140	35	35	50
2年	140	105	105	140	35	35	105	70	140	35	35	70
3年	105	140	140	140	35	35	105	35	140	35	35	70

III. 教科・領域週時数

	国語	社会	数学	理科	音楽	美術	保体	技家	英語	道徳	特活	総合	計
1年	4	3	4	3	1.3	1.3	3	2	4	1	1	1.4	29
2年	4	3	3	4	1	1	3	2	4	1	1	2	29
3年	3	4	4	4	1	1	3	1	4	1	1	2	29

IV. 学習評価について

○学習評価は、教科ごとに評価規準に基づきABCを用いて評価する「観点別学習状況の評価(観点別評価)」と、その観点別評価を総括して5段階で示される「評定」があります。

★観点別学習状況の評価(観点別評価)

- A^o …… 満足できると判断されるもののうち、特に高い頻度のもの
- A …… 満足できると判断されるもの
- B …… おおむね満足できると判断されるもの
- C^o …… 努力を要すると判断されるもの
- C …… 一層努力を要すると判断されるもの

※観点は全教科「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3観点です。

○観点別評価を総括して出される「評定」は、
A^o を5点、Aを4点、Bを3点、C^o を2点、Cを1点 として合計点により以下のとおり決定します。

評定と基準	組み合わせの代表例と合計値			
<p style="text-align: center; font-size: 2em;">5</p> <p>十分満足できると判断されるもの のうち、特に程度の高いもの 【15点～14点】</p>	A ^o	A ^o	A ^o	15
	A ^o	A ^o	A	14
<p style="text-align: center; font-size: 2em;">4</p> <p>十分満足できると判断されるもの 【13点～11点】</p>	A ^o	A	A	13
	A	A	A	12
	A	A	B	11
<p style="text-align: center; font-size: 2em;">3</p> <p>おおむね満足できると判断されるもの 【10点～8点】</p>	A	B	B	10
	B	B	B	9
	B	B	C ^o	8
<p style="text-align: center; font-size: 2em;">2</p> <p>努力を要すると判断されるもの 【7点～5点】</p>	B	C ^o	C ^o	7
	C ^o	C ^o	C ^o	6
	C ^o	C ^o	C	5
<p style="text-align: center; font-size: 2em;">1</p> <p>一層努力を要すると判断されるもの 【4点～3点】</p>	C ^o	C	C	4
	C	C	C	3

※「中学校総則 評価の基本的な考え方(令和2年 神奈川県教育委員会)」資料より

国語科

1. 国語科の目標、育てたい資質や能力

- (1) 社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。
- (2) 社会生活における人とのかかわりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。
- (3) 言葉がもつ価値を認識するとともに、言語活動を豊かにし、国語を尊重しようとする態度を養う。

2. 評価の観点およびその趣旨(評価方法・評価材料など)

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
趣旨	習得すべき知識や重要な概念などを理解したり、習得すべき技能を身に付けたりしているか評価する。 ※実際に知識や技能を用いる場面を設けるなど、多様な方法を取り入れる。	課題を解決するなどのために必要な思考力、判断力、表現力などを身に付けているか評価する。 ※その場面を効果的に設定した上で指導・評価する。	①知識や技能、表現力などを身に付けることに向けた粘り強い取り組みを行おうとする面 ②その取り組みの中で、自らの学習を調整しようとする面を評価する。 ※①・②が両立しないのは一般的ではない。	観点別学習状況の評価には馴染まない感性や思いやりなど、生徒一人ひとりのよい点や可能性、進歩の状況などを積極的に評価する。 (個人内評価)
*国立教育政策研究所資料参考				
評価規準	社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使っている。	「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	言葉を通じて積極的に人と関わったり、思いや考えを深めたりしながら、言葉がもつ価値を認識しようとしているとともに、言語感覚を豊かにし、言葉を適切に使おうとしている。	
A [○]	上記の評価方法の中で、十分に満足できると判断されるもののうち特に程度の高いもの			
A	上記の評価方法の中で、十分に満足できると判断されるもの			
B	上記の評価方法の中で、おおむね満足できると判断されるもの			
C [○]	上記の評価方法の中で、努力を要すると判断されるもの			
C	上記の評価方法の中で、一層努力を要すると判断されるもの			
評価材料	・小テスト ・提出物 ・定期テスト など	・提出物 ・話し合い活動 ・発表活動 ・聞き取り ・定期テスト など	・授業の取り組み ・提出物 など	

3. 年間指導計画

	1年生	2年生	3年生
4月	・文学的文章【詩・物語】	・文学的文章【詩・物語】	・文学的文章【詩・物語】
5月	・論理的文章【説明文】	・文学的文章【古典】	・論理的文章【漢文・説明文】
6月	・文学的文章【詩】	・論理的文章【説明文】	・文学的文章【俳句】
7月	・文学的文章【随筆】 ・書写【硬筆】	・文学的文章【短歌・随筆】 ・書写【硬筆】	・意見文/鑑賞文【書く】 ・書写【硬筆】
8月	・文学的文章【物語】	・文学的文章【小説】	・文学的文章【詩】
9月	・文学的文章【物語】・スピーチ	・意見文/鑑賞文【書く・ディベート】	・文学的文章【小説】
10月	・説明的文章【記録】	・論理的文章【説明文】 ・文学的文章【古典】	・論理的文章【評論文】 ・スピーチ
11月	・文学的文章【古典】	・文学的文章【古典】	・文学的文章【古典】
12月	・文学的文章【古典】 ・書写【毛筆】	・論理的文章【説明文】 ・文学的文章【詩】・書写【毛筆】	・論理的文章【論説文】 ・文法/文学史・書写【毛筆】
1月	・文学的文章【古典・漢文】	・手紙の書き方	・提案/議論の仕方【話し合い】
2月	・文学的文章【小説・詩】	・文学的文章【小説】	・文章の形態の工夫【書く】
3月	・文学的文章【随筆】	・文学的文章【随筆】	・三年間の学習の振り返り

※全学年で帯単位として漢字の学習を行います。

社会科

1. 社会科の目標

社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を次のとおり育成することを目指す。

2. 評価の観点およびその趣旨（評価規準・評価材料など）

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	各教科等における学習の過程を通じた知識及び技能の習得の状況について評価を行うとともに、それらを既存の知識及び技能と関連付けたり活用したりする中で、他の学習や生活の場面でも活用できる程度に概念等を理解したり、技能を習得したりしているかについても評価する。	各教科等の知識及び技能を活用して課題を解決する等のために必要な思考力、判断力、表現力等を身に付けているかを評価する。	知識及び技能を習得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりするために、自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど自らの学習を調整しながら、学ぼうとしているかどうかという意思的な側面を評価する。
* 国立教育政策研究所資料参考			
評価規準	社会的事象の意義や特色、相互の関連を概念的に理解するとともに、調査や諸資料から様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けている。	社会的事象の意義や特色、相互の関連を多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて判断したり、思考・判断したことを表現している。	社会的事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとしている。
A ^o	上記の評価方法の中で、十分に満足できると判断されるものうち特に程度の高いもの		
A	上記の評価方法の中で、十分に満足できると判断されるもの		
B	上記の評価方法の中で、おおむね満足できると判断されるもの		
C ^o	上記の評価方法の中で、努力を要すると判断されるもの		
C	上記の評価方法の中で、一層努力を要すると判断されるもの		
評価材料	<ul style="list-style-type: none"> ○図や表などの活用 ・レポート ・ワークシート ・オクリンクプラスやスライドなどのギガ端末での成果物 ・長期休業中の課題 ・授業内での見取り ○定期テスト（知識・技能を問う問題） <p style="text-align: right;">など</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○思考・判断を問う発問に対する発言や記述 ・レポート ・ワークシート ・オクリンクプラスやスライドなどのギガ端末での成果物 ・長期休業中の課題 ・授業内での見取り ○定期テスト（思考・判断・表現を問う問題） <p style="text-align: right;">など</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○学習活動に対する取り組み ・振り返りシート ・オクリンクプラスやスライドなどのギガ端末での成果物 ・長期休業中の課題 ・授業内での見取り ・定期テストに対する取り組み <p style="text-align: right;">など</p>

3. 年間指導計画

	1年生	2年生	3年生
4月	・「地域構成」	・「地域調査の手法」	・「近代の日本と世界」
5月	・「世界各地の人々の生活と環境」	・「日本の地域的特色と地域区分」	・「現代の日本と世界」
6月	・「私たちの歴史」 ・「身近な地域の歴史」	・「近世の日本」	・「私たちが生きる現代社会と文化の特色」 ・「現代社会を捉える枠組み」
7月	・「古代までの日本」	・「日本の諸地域」 九州地方、中国・四国地方	・「人間の尊重と日本国憲法の基本的原則」
8月			・「国民生活と政府の役割」
9月		・「近代の日本と世界」	・「民主政治と政治参加」
10月	・「世界の諸地域」 アジア、ヨーロッパ、アフリカ	・「日本の諸地域」 近畿地方、中部地方	
11月	・「中世の日本」		・「市場の働きと経済」
12月		・「近代の日本と世界」	
1月	・「世界の諸地域」		・「世界平和と人類の福祉の増大」
2月	北アメリカ、南アメリカ、オセアニア	・「日本の諸地域」 関東地方、東北地方	・「よりよい社会を目指して」
3月	・「近世の日本」	・「近代の日本と世界」 ・「日本の諸地域」北海道地方 ・「地域の在り方」	

数学科

1. 数学科の学習指導目標

数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、基礎的な概念や原理・法則を理解して、事象を数
学化したり、数学的に解釈・表現・処理したりする技能を身に付ける。また、数学を用いて事象を考察・表
現する力や、数学を生かそうとする態度、問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとする態度を養う。

2. 評価の観点およびその趣旨（評価規準・評価材料など）

観 点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣 旨	<p>習得すべき知識や重要な概念などを理解したり、習得すべき技能を身に付けたりしているか評価する。</p> <p>※実際に知識や技能を用いる場面を設けるなど、多様な方法を取り入れる。</p>	<p>課題を解決するなどのために必要な思考力、判断力、表現力などを身に付けているか評価する。</p> <p>※その場면을効果的に設定した上で指導・評価する。</p>	<p>①知識や技能、思考力・判断力・表現力などを身に付けることに向けた粘り強い取り組みを行うおうとする面</p> <p>②その取り組みの中で、自らの学習を調整しようとする面を評価する。</p> <p>※①・②が両立しないのは一般的ではない。</p> <p>観点別学習状況の評価には馴染まない感性や思いやりなど、生徒一人ひとりのよい点や可能性、進歩の状況などを積極的に評価し、生徒に伝える。 (個人内評価)</p>
* 国立教育政策研究所資料参考			
評 価 規 準	<ul style="list-style-type: none"> ・数量や図形などに関する基礎的な概念、原理や法則、定理などの知識を理解している。 ・習得した概念や法則・定理を、既習事項と関連付け、課題解決に用いることができる。 ・事象を数量や図形などで数学的に処理する技能を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事象を数量や図形などで論理的に考察し、表現することができる。 ・課題を十分に把握し、解決へ向けて見通しを持って筋道を立てて考えることができる。 ・事象を数学的に捉え、論理的な考察をするとともに、思考の過程を振り返り、考えを深めることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・数学的活動の楽しさや数学のよさを実感し粘り強く考え、数学を生活や学習に生かそうとしている。 ・学んだことを身につけるために学習の調整を行っている。 ・多面的な考えを出し合い、認め合おうとしている。 ・問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとしている。
A°	上記の評価方法の中で、十分に満足できると判断されるものうち特に程度の高いもの		
A	上記の評価方法の中で、十分に満足できると判断されるもの		
B	上記の評価方法の中で、おおむね満足できると判断されるもの		
C°	上記の評価方法の中で、努力を要すると判断されるもの		
C	上記の評価方法の中で、一層努力を要すると判断されるもの		
評 価 材 料	<ul style="list-style-type: none"> ・単元テスト ・授業での小テスト (マストレや再テストなど) ・授業プリント ・定期テスト <p style="text-align: right;">など</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・単元テスト ・授業での小テスト (再テストなど) ・授業プリント ・定期テスト <p style="text-align: right;">など</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・問題集 ・長期休業の宿題 ・ノートやプリントの内容 ・マストレや授業への取組み・理解度 ・振り返りシート <p style="text-align: right;">など</p>

3. 学習計画

○第1学年

学期	月	章	節		
前期	4	2章	1節	正の数, 負の数	
			2節	加法と減法	
			3節	乗法と除法	
			4節	正の数, 負の数の利用	
	5	2章	1節	整数の見方	
			2節		
	7	3章	1節	文字を使った式	
			2節	文字を使った式の計算	
			3節	文字を使った式の利用	
			4節	数量の関係を表す式	
	10	4章	1節	方程式とその解き方	
			2節	方程式の利用	
	後期	11	5章	1節	関数
				2節	比例
3節				反比例	
4節				比例と反比例の利用	
12		6章	1節	点と直線, 円	
			2節	作図	
			3節	図形の移動	
			4節	円とおうぎ形の計量	
2		7章	1節	立体と空間図形	
			2節	立体の体積と表面積	
3	8章	1節	データの整理と分析		
		2節	データにもとづく確率		

○第2学年

学期	月	章	節		
前期	4	1章	1節	単項式と多項式	
			2節	式の利用	
	6	2章	1節	連立方程式とその解き方	
			2節	連立方程式の利用	
	7	3章	1節	1次関数	
			2節	1次関数と方程式	
			3節	1次関数の利用	
	10	4章	1節	平行線と角	
			2節	合同と証明	
	後期	12	5章	1節	三角形
				2節	四角形
				3節	三角形と四角形の利用
		1	6章	1節	確率
				7章	箱ひげ図
2		7章	1節		
			2節		
3	8章	1節			
		2節			

○第3学年

学期	月	章	節	
前期	4	1章	1節	多項式の乗法と除法
	5		2節	因数分解
			3節	式の利用
	6	2章	1節	平方根
			2節	根号をふくむ式の計算
			3節	平方根の利用
	7	3章	1節	2次方程式とその解き方
			2節	2次方程式の利用
	9	4章	1節	関数 $y=ax^2$
	10		2節	関数 $y=ax^2$ の利用
			3節	いろいろな関数
	後期	11	5章	1節
2節				平行線と線分の比
3節				相似な図形の面積の比と体積の比
4節				相似な図形の利用
12		6章	1節	円周角の定理
			2節	円周角の定理の利用
1		7章	1節	三平方の定理
			2節	三平方の定理の利用
2		8章	1節	標本調査
			3	

理科

1. 理科学習指導目標

自然の事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付ける。また、科学的に探究する力や探求しようとする態度を養う。

2. 評価の観点およびその趣旨（評価方法・評価材料など）

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	<p>習得すべき知識や重要な概念などを理解したり、習得すべき技能を身に付けていたりしているか評価する。</p> <p>※実際に知識や技能を用いる場面を設けるなど、多様な方法を取り入れる。</p>	<p>課題を解決するなどのために必要な思考力、判断力、表現力などを身に付けているか評価する。</p> <p>※その場면을効果的に設定した上で指導・評価する。</p>	<p>①知識や技能、表現力などを身に付けることに向けた粘り強い取り組みを行おうとする面</p> <p>②その取り組みの中で、自らの学習を調整しようとする面を評価する。</p> <p>※①・②が両立しないのは一般的ではない。</p> <p>観点別学習状況の評価には馴染まない感性や思いやりなど、生徒一人ひとりのよい点や可能性、進歩の状況などを積極的に評価し、生徒に伝える。 (個人内評価)</p>
* 国立教育政策研究所資料参考			
評価基準	<p>自然の事物・現象についての基本的な概念や原理・法則を理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。</p>	<p>自然の事物・現象から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。</p>	<p>自然の事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。</p>
A°	上記の評価方法の中で、十分に満足できると判断されるものうち特に程度の高いもの		
A	上記の評価方法の中で、十分に満足できると判断されるもの		
B	上記の評価方法の中で、おおむね満足できると判断されるもの		
C°	上記の評価方法の中で、努力を要すると判断されるもの		
C	上記の評価方法の中で、一層努力を要すると判断されるもの		
評価材料	<ul style="list-style-type: none"> ・行動観察 ・観察、実験レポート ・ワークシート（ノート） ・定期テスト ・単元テスト ・小テスト ・パフォーマンステスト ・テスト振り返り小テスト <p style="text-align: right;">など</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・行動観察 ・まとめプリント ・観察、実験レポート ・ワークシート（ノート） ・定期テスト ・単元テスト ・小テスト ・テスト振り返り小テスト <p style="text-align: right;">など</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・行動観察 ・まとめプリント ・観察、実験レポート ・ワークシート（ノート） ・提出物（ノートやワーク） ・テスト振り返り ・テスト振り返り小テスト <p style="text-align: right;">など</p>

3. 年間指導計画

月	1年 学習内容・単元	2年 学習内容・単元	3年 学習内容・単元 (並行履修)	
4	自然の中にあふれる生命 いろいろな生物とその共通点 1章 植物の特徴と分類 2章 動物の特徴と分類 ・生物の観察と分類の仕方 ・生物の体の共通点と相違点	地球の大気と天気の変化 1章 地球をとり巻く大気の様子 ・気象観測 2章 空気中の水の変化 ・天気の変化 3章 天気の変化と大気の動き 4章 大気の動きと日本の四季 ・日本の気象 ・自然の恵みと気象災害	運動とエネルギー 1章 力の合成と分解 ・力のつり合いと合成・分解 2章 物体の運動 ・運動の規則性 3章 仕事とエネルギー ・力学的エネルギー 4章 多様なエネルギーとその移り変わり 5章 エネルギー資源とその利用 ・エネルギーと物質	宇宙を観る 1章 宇宙の天体 ・太陽系と恒星 2章 太陽と恒星の動き 3章 月と金星の動きと見え方 ・天体の動きと地球の自転・公転
5				
6				
7				
8				
9	光・音・力による現象 1章 光による現象 2章 音による現象 ・光と音 3章 力による現象 ・力の働き	化学変化と原子・分子 1章 物質の成り立ち 2章 物質の表し方 ・物質の成り立ち 3章 さまざまな化学変化 ・化学変化 4章 化学変化と物質の質量 ・化学変化と物質の質量		
10	身のまわりの物質 1章 いろいろな物質とその性質 2章 いろいろな気体とその性質 ・物質のすがた 3章 水溶液の性質 ・水溶液 4章 物質のすがたとその変化 ・状態変化	生物の体のつくりとはたらき 1章 生物の体をつくるもの ・生物と細胞・ 2章 植物の体のつくりとはたらき ・植物の体のつくりと働き 3章 動物の体のつくりとはたらき 4章 動物の行動のしくみ ・動物の体のつくりと働き	生命の連続性 1章 生物のふえ方と成長 ・生物の成長と殖え方 2章 遺伝の規則性と遺伝子 ・遺伝の規則性と遺伝子 3章 生物の種類の多様性と進化 ・生物の種類の多様性と進化	
11				
12	活きている地球 1章 身近な大地 2章 ゆれる大地 3章 火をふく大地 ・身近な地形や地層、岩石の観察 ・火山と地震 4章 語る大地 ・地層の重なりと過去の様子 ・自然の恵みと火山災害・地震災害	電流とその利用 1章 電流の性質 2章 電流の正体 ・電流 3章 電流と磁界 ・電流と磁界	化学変化とイオン 1章 水溶液とイオン ・水溶液とイオン 2章 電池とイオン 3章 酸・アルカリと塩 ・化学変化と電池	自然と人間 1章 自然界のつり合い ・生物と環境 2章 さまざまな物質の利用と人間 3章 科学技術の発展 4章 人間と環境 5章 持続可能な社会をめざして ・自然環境の保全と科学技術の利用
1				
2			教科書の内容が終わり次第、1～3年までの復習	
3				

音楽

1. 音楽学習指導目標

表現及び鑑賞の幅広い活動を通して学習が行われることを前提とし、音楽的な見方・考え方を働かせた学習活動によって、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を育成することを目指す。

2. 評価の観点およびその趣旨（評価方法・評価材料など）

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	<p>習得すべき知識や重要な概念などを理解したり、習得すべき技能を身に付けたりしているか評価する。</p> <p>※実際に知識や技能を用いる場面を設けるなど、多様な方法を取り入れる。</p>	<p>課題を解決するなどのために必要な思考力、判断力、表現力などを身に付けているか評価する。</p> <p>※その場면을効果的に設定した上で指導・評価する。</p>	<p>①知識や技能、表現力などを身に付けることに向けた粘り強い取り組みを行おうとする面</p> <p>②その取り組みの中で、自らの学習を調整しようとする面を評価する。</p> <p>※①・②が両立しないのは一般的ではない。</p> <p>観点別学習状況の評価には馴染まない感性や思いやりなど、生徒一人ひとりのよい点や可能性、進歩の状況などを積極的に評価し、生徒に伝える。 (個人内評価)</p>
*国立教育政策研究所資料参考			
評価規準	<p>・曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解している。</p> <p>・創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽、創作で表している。</p>	<p>音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したことの関わりについて考え、どのように表すかについて思いや意図をもったり、音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴いたりしている。</p>	<p>音や音楽、音楽文化に親しむことができるよう、音楽活動を楽しみながら主体的・共同的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。</p>
A°	上記の評価方法の中で、十分に満足できると判断されるものうち特に程度の高いもの		
A	上記の評価方法の中で、十分に満足できると判断されるもの		
B	上記の評価方法の中で、おおむね満足できると判断されるもの		
C°	上記の評価方法の中で、努力を要すると判断されるもの		
C	上記の評価方法の中で、一層努力を要すると判断されるもの		
評価材料	<ul style="list-style-type: none"> 学習活動の取り組み ワークシートの記述内容 実技 定期テスト 提出物 <p style="text-align: right;">など</p>	<ul style="list-style-type: none"> 学習活動の取り組み ワークシートの記述内容 実技 定期テスト 提出物 <p style="text-align: right;">など</p>	<ul style="list-style-type: none"> 学習活動への取り組み ワークシートの記述内容 授業中の発言内容 提出物 <p style="text-align: right;">など</p>

3. 年間指導計画

2026年度 音楽 年間指導計画

月	1学年 学習内容	2学年 学習内容	3学年 学習内容
4	発声練習 校歌 歌唱「夏の日の贈りもの」	発声練習 校歌 歌唱「翼をください」	発声練習 校歌・既習曲
5	歌唱「浜辺の歌」	鑑賞「交響曲第5番」	歌唱「花」
6	鑑賞「ジョーズのテーマ」 鑑賞 四季より「春」	歌唱「夏の思い出」	鑑賞「ブルタバ」
7	器楽「リコーダー」 歌唱「合唱コンクールの曲」	歌唱「合唱コンクールの曲」	歌唱「合唱コンクールの曲」
8	創作「リズム創作」	創作「メロディ創作をしよう」	鑑賞「日本の伝統音楽」
9	鑑賞「魔王」	歌唱「合唱コンクールの曲」	歌唱「合唱コンクールの曲」
10	歌唱「合唱コンクールの曲」		
11			
12	歌唱「赤とんぼ」	鑑賞「アイーダ」 鑑賞「勅進帳」	歌唱「早春賦」
1	器楽「箏」	器楽「箏」	器楽「箏」
2	歌唱「三送会の合唱」	歌唱「三送会の合唱」	創作「前奏を作ろう」
3	創作「ボディーパーカッション」	創作「リズム創作をしよう」	

美術科

1 目標

- ・対象や事象を捉える造形的な視点について理解するとともに、表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。
- ・造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。
- ・美術の創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を育み、感性を豊かにし、心豊かな生活を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う。

2 観点別評価の趣旨、評価規準例、評価材料

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	<p>〈1学年〉 対象や事象を捉える造形的な視点について理解するとともに、意図に応じて表現方法を工夫して表すことができるようにする。</p> <p>〈2・3学年〉 対象や事象を捉える造形的な視点について理解するとともに、意図に応じて自分の表現方法を追究し、創造的に表すことができるようにする。</p>	<p>自然の造形や美術作品などの造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、機能性と洗練された美しさとの調和、美術の働きなどについて独創的・総合的に考え、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。</p> <p>※下線部は2・3学年のみ</p>	<p>〈1学年〉 楽しく美術の活動に取り組み創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を培い、心豊かな生活を創造していく態度を養う。</p> <p>〈2・3学年〉 主体的に美術の活動に取り組み創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を深め、心豊かな生活を創造していく態度を養う。</p>
評価規準(例)	<ul style="list-style-type: none"> ・形や色彩、材料、光などの性質やそれらが感情にもたらす効果などを基に、全体のイメージや作風などで捉えることを理解している。 ・材料や用具の特性を生かし、意図に応じて自分の表現方法を追究して創造的に表している。 ・材料や用具、表現方法の特性などから制作の順序などを総合的に考えながら、見通しをもって表している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・伝える目的や条件などを基に、伝える相手や内容、社会との関わりなどから主題を生み出し、伝達の効果と美しさなどの調和を総合的に考え、表現の構想を練っている。 ・目的や機能との調和のとれた洗練された美しさなどを感じ取り、作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考えるなどして、美意識を高め、見方や感じ方を深めている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・美術の創造活動の喜びを味わい主体的に目的や機能などを考えた表現や鑑賞の学習活動に取り組み、豊かな生活を創造しようとする。 <p>第2学年及び第3学年「A表現」(1)イ「デザインや工芸」に関する例になります。</p>
A°	上記の評価方法の中で、十分に満足できると判断されるものうち特に程度の高いもの		
A	上記の評価方法の中で、十分に満足できると判断されるもの		
B	上記の評価方法の中で、おおむね満足できると判断されるもの		
C°	上記の評価方法の中で、努力を要すると判断されるもの		
C	上記の評価方法の中で、一層努力を要すると判断されるもの		
評価材料	<ul style="list-style-type: none"> ・実技課題 (課題によりワークシート) ・定期テスト 	<ul style="list-style-type: none"> ・実技課題 (課題によりワークシート) ・定期テスト 	<ul style="list-style-type: none"> ・実技課題 (課題によりワークシート) ・单元ごとの取り組みの様子

3. 年間指導計画

月	1 学年	2 学年	3 学年
4	<ul style="list-style-type: none"> ・見つめて、感じて、描いて 	<ul style="list-style-type: none"> ・自由な視点で風景を見つめる 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の技と心を受け継いで
5	<ul style="list-style-type: none"> ○鉛筆の種類、絵を描く 	<ul style="list-style-type: none"> ○遠近法 	<ul style="list-style-type: none"> ○千社札
6	<ul style="list-style-type: none"> ○トーン（階調）づくり 	<ul style="list-style-type: none"> ○室内図 	
7	<ul style="list-style-type: none"> ○デジタルイラストレーション 	<ul style="list-style-type: none"> ○写真 	<ul style="list-style-type: none"> ・わたし自身を見つめて
8	<ul style="list-style-type: none"> ○果物野菜を描く 		<ul style="list-style-type: none"> ○人物画 ○自画像
9	<ul style="list-style-type: none"> ・色の整理 ・絵の中にある物語 ○美術作品の鑑賞のしかた ・定期テスト 	<ul style="list-style-type: none"> ・現代美術にザワザワザワッ ○抽象とは ・イメージを形にすると ○抽象（絵画、彫刻） ・定期テスト 	<ul style="list-style-type: none"> ・ルネサンスが目指したもの ・色の整理復習 ・定期テスト
10	<ul style="list-style-type: none"> ・色の整理 2（混色など） ・文字が生み出すイメージ ○レタリング 	<ul style="list-style-type: none"> ・ひと目で伝わるみんなのデザイン ○ピクトグラム ・色彩の特徴を深く知る 	<ul style="list-style-type: none"> ・その一枚が心を動かす ○ポスター ・光に気持ちを込めて ○印象主義
11	<ul style="list-style-type: none"> ○発想・構想の手立て ○絵文字 ・自然の美しさから生まれた ○立体造形 	<ul style="list-style-type: none"> ・仏像の姿に見る人々の祈り ○仏像の種類 ○レポート制作 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本文化との出会い ○ジャポニズム ・定期テスト
12	<ul style="list-style-type: none"> ○構成美の要素 ・つなげて広がる模様の世界 ○日本の文様 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の技と心を受け継いで ○伝統工芸 ○日本の伝統色 ○日本の美意識 	<ul style="list-style-type: none"> ・思いを込めた卒業記念品 ○伝統工芸
1			
2	<ul style="list-style-type: none"> ・定期テスト 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期テスト 	
3	<ul style="list-style-type: none"> ・自由な視点で風景を見つめる ○遠近法 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の技と心を受け継いで ○立体造形 	

生徒の実態に応じて、制作するものや課題、時期は変更します。

教科の特性上、課題の詳細（内容）は事前にお知らせすることはできません。

保健体育

1. 保健体育学習指導目標

体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を次の通り育成することを目指す。

2. 評価の観点およびその趣旨（評価方法・評価材料など）

観 点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣 旨	運動の合理的な実践に関する具体的な事項や生涯にわたって運動を豊かに実践するための理論について理解しているとともに、運動の特性に応じた基本的な技能を身に付けている。また、個人生活における健康・安全について科学的に理解しているとともに、基本的な技能を身に付けている。	自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて、課題に応じた運動の取り組み方や目的に応じた運動の組み合わせ方を工夫しているとともに、それらを他者に伝えている。また、個人生活における健康に関する課題を発見し、その解決を目指して科学的に思考し判断しているとともに、それらを他者に伝えている。	運動の楽しさや喜びを味わうことができるよう、運動の合理的な実践に主体的に取り組もうとしている。また、健康を大切にし、自他の健康の保持増進や回復についての学習に主体的に取り組もうとしている。
* 国立教育政策研究所資料参考			
評 価 規 準	各種の運動の特性に応じた技能等及び個人生活における健康・安全について理解するとともに、基本的な技能が身に付いている。	運動や健康についての自他の課題を発見し、合理的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝えている。	生涯にわたって運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かな生活を営む態度を養おうとしている。
A ^o	上記の評価方法の中で、十分に満足できると判断されるものうち特に程度の高いもの		
A	上記の評価方法の中で、十分に満足できると判断されるもの		
B	上記の評価方法の中で、おおむね満足できると判断されるもの		
C ^o	上記の評価方法の中で、努力を要すると判断されるもの		
C	上記の評価方法の中で、一層努力を要すると判断されるもの		
評 価 材 料	<ul style="list-style-type: none"> 授業内の取り組み（観察） 学習プリント（ノート） 定期テスト 	<ul style="list-style-type: none"> 授業内の取り組み（観察） 学習プリント（ノート） 	<ul style="list-style-type: none"> 授業内の取り組み（観察） 学習プリント（ノート）

技術・家庭科

1. 学習指導目標

生活の営みに係る見方・考え方や技術の見方・考え方を働かせ、生活や技術に関する実践的・体験的な活動を通して、よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し、創造する資質・能力を育成する。

2. 評価の観点およびその趣旨（評価方法・評価材料など）

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	<p>習得すべき知識や重要な概念などを理解したり、習得すべき技能を身に付けたりしているか評価する。</p> <p>※実際に知識や技能を用いる場面を設けるなど、多様な方法を取り入れる。</p>	<p>課題を解決するなどのために必要な思考力、判断力、表現力などを身に付けているか評価する。</p> <p>※その場面を効果的に設定した上で指導・評価する。</p>	<p>①知識や技能、表現力などを身に付けることに向けた粘り強い取り組みを行おうとする面</p> <p>②その取り組みの中で、自らの学習を調整しようとする面を評価する。</p> <p>※①・②が両立しないのは一般的ではない。</p> <p>観点別学習状況の評価には馴染まない感性や思いやりなど、生徒一人ひとりのよい点や可能性、進歩の状況などを積極的に評価し、生徒に伝える。 (個人内評価)</p>
*国立教育政策研究所資料参考			
評価規準	<p>生活と技術について理解しているとともに、それらに係る技能を身に付けている。</p>	<p>生活や社会の中から問題を見出して課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。</p>	<p>よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。</p>
A°	上記の評価方法の中で、十分に満足できると判断されるものうち特に程度の高いもの		
A	上記の評価方法の中で、十分に満足できると判断されるもの		
B	上記の評価方法の中で、おおむね満足できると判断されるもの		
C°	上記の評価方法の中で、努力を要すると判断されるもの		
C	上記の評価方法の中で、一層努力を要すると判断されるもの		
評価材料	<ul style="list-style-type: none"> 作品 プリント レポート 定期テスト 小テスト 行動観察 <p>など</p>	<ul style="list-style-type: none"> 作品 プリント レポート 定期テスト 行動観察 <p>など</p>	<ul style="list-style-type: none"> 作品 行動観察 プリント レポート <p>など</p>

3. 年間指導計画

2026年度 技術・家庭科【技術分野】年間指導計画

月	1 学年	2 学年	3 学年
4	1 編 材料と加工の技術	2 章 生物育成の技術による問題解決	2 章 双方向性のあるコンテンツのプログラミングによる問題解決
5	1 章 生活や社会を支える	3 章 社会の発展と生物育成の技術	
6			
7	2 章 材料と加工の技術による問題解決	3 編 エネルギー変換の技術 1 章 生活や社会を支えるエネルギー変換の技術	3 章 計測・制御のプログラミングによる問題解決
8			
9	3 章 社会の発展と材料と加工の技術 ・木材加工（実習	2 章 エネルギー変換の技術による問題解決 ・実習（光センサーライト）	4 章 社会の発展と情報の技術
10		3 章 社会の発展とエネルギー変換の技術	
11		4 編 情報の技術	
12		1 章 生活や社会を支える情報の技術	
1		2 章 双方向性のあるコンテンツのプログラミングによる問題解決	
2			
3	2 編 1 章 生物育成の技術		

2026年度 技術・家庭科【家庭分野】年間指導計画

月	1 学年	2 学年	3 学年
4	1 編 未来につながる家庭分野 1 章 家庭分野のガイダンス	2 編 私たちの食生活 1 章 食事の役割と中学生の栄養の特徴	5 編 私たちの消費生活と環境 1 章 私たちの消費生活
5	2 章 私たちの家族と家庭生活	2 章 中学生に必要な栄養素を満たす食事	2 章 責任ある消費者になるために
6		3 章 調理のための食品の選択と購入	3 章 持続可能な消費生活
7	3 編 私たちの衣生活	4 章 日常食の調理と食文化	6 編 私たちの成長と家族・地域 1 章 幼児の生活と家族 2 章 持続可能な家庭・地域生活
8	1 章 衣服の選択と手入れ	5 章 持続可能な食生活	
9	3 章 持続可能な衣生活		
10	2 章 生活を豊かにするための被服製作		
11			
12	4 編 私たちの住生活	4 編 私たちの住生活	
1	1 章 住まいの役割と安全な住まい方	1 章 住まいの役割と安全な住まい方	
2	2 章 持続可能な住生活を	2 章 持続可能な住生活を	
3	目指して	目指して	

英語

1. 英語科学習指導目標

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を育成することを目指す。

2. 評価の観点およびその趣旨（評価方法・評価材料など）

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	<p>習得すべき知識や重要な概念などを理解したり、習得すべき技能を身に付けたりしているか評価する。</p> <p>※実際に知識や技能を用いる場面を設けるなど、多様な方法を取り入れる。</p>	<p>課題を解決するなどのために必要な思考力、判断力、表現力などを身に付けているか評価する。</p> <p>※その場면을効果的に設定した上で指導・評価する。</p>	<p>①知識や技能、表現力などを身に付けることに向けた粘り強い取り組みを行おうとする面を評価する。</p> <p>②その取り組みの中で、自らの学習を調整しようとする面を評価する。</p> <p>観点別学習状況の評価には馴染まない感性や思いやりなど、生徒一人ひとりのよい点や可能性、進歩の状況などを積極的に評価し、生徒に伝える。 (個人内評価)</p>
* 国立教育政策研究所資料参考			
評価基準	英語の特徴やきまりに関する事項を理解している。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について事実や自分の考え、気持ちなどを伝え合ったり、書いたりしている。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に英語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。
A°	上記の評価方法の中で、十分に満足できると判断されるものうち特に程度の高いもの		
A	上記の評価方法の中で、十分に満足できると判断されるもの		
B	上記の評価方法の中で、おおむね満足できると判断されるもの		
C°	上記の評価方法の中で、努力を要すると判断されるもの		
C	上記の評価方法の中で、一層努力を要すると判断されるもの		
評価材料	<ul style="list-style-type: none"> ・ 単元テスト ・ パフォーマンステスト (スピーチ、やりとり、ライティングなど) ・ 小テスト ・ 定期テスト <p style="text-align: right;">など</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 単元テスト ・ パフォーマンステスト (スピーチ、やりとり、ライティングなど) ・ 小テスト ・ 定期テスト <p style="text-align: right;">など</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 単元テスト ・ パフォーマンステスト (スピーチ、やりとり、ライティングなど) ・ 小テスト ・ 定期テスト ・ 振り返り ・ 提出物 <p style="text-align: right;">など</p>

令和8年度 南加瀬中学校 英語科 年間指導計画

	1年	2年	3年
4月	Unit 1 自己紹介、be 動詞 (am, are)	Unit 1 一般動詞の過去形、接続詞 when	Unit 1 受け身、let/help+人+原形、 tell+人+that
5月	Unit 2 be 動詞(is)、指示代名詞(this, that)	Unit 2 未来の文(will, be going to)、 show/give	Unit 2 現在完了形 (完了・経験)
6月	Unit 3 一般動詞 (like, have, play 等)	Unit 3 不定詞 (名詞・副詞・形容詞的 用法)	Unit 3 現在完了形 (継続)、現在完了 進行形、疑問詞+to
7月	L.R. 1 数、身の回りの単語	L.R. 1 文型 (主語+動詞+目的語+補語)	L.R. 1 杉原千畝の伝記 (過去の表現)
9月	Unit 4 疑問詞 (what, who, how)、can	Unit 4 助動詞 (must, have to, may, should)	Unit 4 関係代名詞 (主格:which, who)
10月	Unit 5 3人称単数現在形 (-s, -es)	Unit 5 不定詞 (want 人 to...)、動名 詞関係代名詞 (主格: which, who)	Unit 5 関係代名詞 (目的格)、接触節
11月	Unit 6 疑問詞 (where, when, which)	Unit 6 比較級・最上級、as...as	Unit 6 後置修飾 (現在分詞 -ing、過 去分詞)
12月	YCDI! 2 プレゼンテーションの基礎	YCDI! 2 プレゼンテーションの技法	YCDI! 2 持続可能な社会 (SDGs)
1月	Unit 7 現在進行形 (be + -ing)	Unit 7 受動態 (受け身の文)	Unit 7 仮定法 (If I were..., I wish...)
2月	Unit 8 一般動詞の過去形 (規則・不規 則)	Unit 8 接続詞 (that, if, because)	L.R. 3 伝説のスピーチ (環境問題)
3月	L.R. 3 総復習・まとまった文章の読解	L.R. 3 総復習・物語の読解	Unit 8 大切な人への手紙

南加瀬中学校 「特別の教科 道徳」

学習指導要領の内容（内容項目）

<p>主として 自分自身に関すること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自主、自律、自由と責任 ○ 節度、節制 ○ 向上心、個性の伸長 ○ 希望と勇気、克己と強い意志 ○ 真理の探究
<p>主として 人との関わりに関すること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 思いやり、感謝 ○ 礼儀 ○ 友情、信頼 ○ 相互理解、寛容
<p>主として 集団や社会との関わりに関すること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 遵法精神、公德心 ○ 公正、公平、社会正義 ○ 社会参画、公共の精神 ○ 勤労 ○ 家族愛、家庭生活の充実 ○ よりよい学校生活、集団生活の充実 ○ 郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度 ○ 我が国の伝統と文化の尊重、国を愛する態度 ○ 国際理解、国際貢献
<p>主として 生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生命の尊さ ○ 自然愛護 ○ 感動、畏敬の念 ○ よりよく生きる喜び

【評価の視点】

●視点1「多面的・多角的な見方・考え方」

一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展させているかどうかを見取る。

- ①道徳的価値に関わる問題に対する判断の根拠やそのときの心情を様々な視点から捉え考えようとしていることに着目する。
- ②自分と違う立場や感じ方、考え方を理解しようとしていることに着目する。
- ③複数の道徳的仮の対立が生じる場面において取り得る行動を多面的・多角的に考えようとしていることに着目する。

●視点2「自己を見つめる」

道徳的価値の理解を自分自身とのかかわりの中で深めているかどうかを見取る。

- ④教材の登場人物を自分に置き換えて考え、自分なりに具体的にイメージして理解しようとしていることに着目する。
- ⑤現在の自分自身を振り返り、自らの行動や考えを見直していることがうかがえる部分に着目する。
- ⑥道徳的な問題に対して自己の取り得る行動を他社と議論する中で、道徳的価値の理解をさらに深めていることに着目する。
- ⑦道徳的価値の実現の難しさを自分のこととして捉え、考えようとしていることに着目する。

【一定期間を経た評価】

●「進歩の状況を認める評価」

それぞれの授業記録を縦並びにして見た時に、進歩している部分についてその良さを認める。

●「突出したよさを認める評価」

それぞれの授業記録を横並びにして見た時に、突出した部分についてその良さを認める。

総合的な学習の時間

☆研究主題

多様な価値観を大切にし、将来を見つめ自分の歩む道を切り拓ける生徒の育成

①本校の総合的な学習の時間の内容

	学習課題	学習活動	内容
1年	地域と自分とのつながり	地域の人々との関わりを大切に考え、地域や学校の特色について調べ、地域や学校のために何ができるかを考える。	・南加瀬を知ろう ・学校周辺を調べよう ・八ヶ岳周辺を知ろう
2年	職業と自分とのつながり	職場体験学習を中心に、地域から学ぶことから職業や自分の将来について考え、進路選択の一助となるように学習する。	・働くのに必要な力を知ろう ・自分の魅力を探ろう ・川崎以外の地域を知ろう
3年	社会と自分とのつながり	自分の興味・関心をもとに、調査活動や話し合い活動を行うことで、自分自身を見つめ、他者へ共感し多様な価値観に触れ、見方や考え方を広げる。	・課題設定解決学習をしよう ・関西地方を知ろう ・自分にあった進路を見つけよう

②総合の学習の評価について：毎時間の評価で、最も多い評価を学期の評価とし、文章表記します。

A(合計9～8点)とみなされる例			B(合計7～5点)とみなされる例			C(合計4～3点)とみなされる例		
価値を見だし個別のスキルアップを行う	横断的・総合的な問題解決の能力	実社会における横断的・総合的な問題解決に取り組む態度	価値を見だし個別のスキルアップを行う	横断的・総合的な問題解決の能力	実社会における横断的・総合的な問題解決に取り組む態度	価値を見だし個別のスキルアップを行う	横断的・総合的な問題解決の能力	実社会における横断的・総合的な問題解決に取り組む態度
A	A	A	B	B	A	C	C	C
A	A	B	B	B	B	C	C	B
A	B	A	B	B	C	C	B	C

※各項目別観点は、A=3点、B=2点、C=1点、で換算します。

③評価の例

A	●探求的な学習の過程で、課題の解決に主体的・協働的に取り組み、探究活動の素地を養うことができた。
B	●探求的な学習の過程で、課題の解決に主体的・協働的に取り組もうと努力をした。
C	●探求的な学習の過程で、自分の課題に興味や関心を持つ必要があった。
	●探求的な学習の過程で、自分の課題に興味や関心を持てなかった。